

貞保親王像(北御牧)

京都の山科盆地に諸羽神社^{もろは}がある。祭神は長野県東御市北御牧の両羽神社^{もろは}と同じく天児屋根命^{あめのこやねのみこと}と天太玉命^{あめのふとだまのみこと}である。北御牧の両羽神社は望月牧の時代、ここから勧請^{かんじょう}、分祀^{ぶんし}されたと云われている。両羽神社内に大きな寄木造りの木造座像がある。古くは善湊王像、改められて貞保親王像(高さ 86 cm・幅 67 cm)と、もう一方は、船白^{ふなしろ}・船代像(高さ 65 cm・幅 52 cm)であると云い伝えられている。船白は渤海国から渡来したダツタン人で、滋野・望月氏はダツタン人から馬の飼育技術を学び、牧の運営をしていたと云われている。滋野・望月氏のルーツを垣間見ることができる。

滋野氏の祖の^{ならはらのみやっこあずまびと}櫛原造東人は東御市奈良原の出で、都(奈良・京都)に出て朝廷に仕えるようになり滋野氏を名乗るようになったとみられる。

(川端紅葉著 2026・3・11)



「両羽神社内の木造座像」(左：貞保親王像 右：船白像、東御市教育委員会)